

熱いパフォーマンスで世界中を魅了! 30周年を迎える今年の予定と意気込みは?

「DRUM TAO」代表・藤高郁夫さんにインタビュー



寒さも吹き飛ばす熱い舞台が魅力の「DRUM TAO (ドラムタオ)」は、今年30周年を迎えます。そこで、代表・藤高郁夫さんにインタビュー!



「自分たちの芸術を旅をしながら伝えられ、多くの人に喜んでいただけた。本当に幸せな仕事です」と藤高郁夫さん

和太鼓だけではない音楽・ミュージカルショーの世界

—30周年おめでとうございませう。まずTAOのルーツを教えてください。

太鼓は古来から伝わる、雅楽に使用される楽器のひとつです。「和太鼓が文化として注目されたのは、1970年の大阪万博の際、日本の文化である和太鼓の演奏を聴いたフランスのデザイナーが「自分のショーで演奏してほしい」と依頼、パリで演奏したことがきっかけではないかと思えます。当時演奏した佐渡の和太鼓グループから派生したのが現在の「DRUM TAO」です。

私が演出家としてTAOを率いることになった時、世界に通用するようなエンターテインメントを作りたいと考えましたが、実績がないことで話も聞いてもらえない日々が続きました。それは日本でも100万枚チケットを販売しても同様で、

転機になったのは、「欲しいと思われるまで魅力を伝え続けよう」と世界で最もポピュラーなエンターバラで行われる世界



座長の西亜里沙さん。西さんの女神のように美しい舞踊も見どころ!

最大の芸術祭に参加したことで、非常に良い評価をいただき、世界中から公演の依頼が舞い込むようになったのです。国を代表して海外で演目を披露する機会もいただけることは本当にありがたい。今はこんな時代ですが、芸術は国境を超えるというか、感動はすべてを救(ゆる)すと感じます。

太鼓は、演奏のみで舞台芸術として認められるのは難しい。そのため、誰も考えつかないような面白い発想と他にはないエンターテインメントショーを世界に提案しています。さらに、和太鼓文化が良い音楽として発展していくために、毎年新しい演目も作っています。

—今年5月からスタートする30周年特別公演「THE TAO 夢幻響」の見た目は?

昨年の「KAIKI」は原点に戻って太鼓を叩きまくったり、29年間のすべてを振り返って、パフォーマンス表現を始めた頃に「原点回帰」集大成を作品として表現しました。

30年目は新しく、これまで自分たちが想像しなかった世界へ入っていく。ミュージカル仕立てのサカスのようにあり、人間の肉体の限界に挑戦した1997年の「天響(TENKYU)」の要素を散りばめ、さらにそれを超えたショーに挑戦していきます。初めての方は和太鼓だけではない音楽・ミュージカルショーとしての「DRUM TAO」の世界観を楽しんでほしい。

—ファンへ意気込みをまずは、感謝の気持ち



和太鼓のみぞおちに響くような音、そして最新のデジタル技術を駆使した色彩と光と音の世界観を楽しんで

世界中に多くのファンを持つ「DRUM TAO」。30年目の今年は新たなチャレンジで私たちに新しい世界を届けてくれそうです。

DRUM TAO 30周年記念

「THE TAO 夢幻響」5月の福岡公演

- 6日(土) 18:00 北九州芸術劇場 大ホール
- 7日(日) 13:00 北九州芸術劇場 大ホール
- 10日(水) 18:30 アクロス福岡 シンフォニーホール
- 11日(木) 14:00 アクロス福岡 シンフォニーホール
- 13日(土) 18:00 久留米シティプラザ
- 14日(日) 13:00 久留米シティプラザ

その他、九州・沖縄など全国ツアー実施予定

チケット情報など詳細は公式サイトで

<https://www.drum-tao.com/>

問い合わせはTAO事務局へ

TEL 092-721-2015 (平日10:00~19:00)